

令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	64	みんなのヘルスアクション創出事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-ア			
担当部課名	保健医療部 健康長寿課	事業実施(予定)年度	H28 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進		
事業内容	①健康情報発信事業:日常生活における健康づくりの実践による健康増進・免疫力の維持向上を図るため、生活習慣病や免疫力をテーマとした各分野毎の動画コンテンツを作成・発信し、健康的な生活習慣の知識や実践方法を身につけることによって県民のヘルスリテラシーの向上を目指す。 ②健康経営支援事業:事業所内での健康づくりを支援するため、専門講師による健康経営セミナー(オンライン)を実施し、実践方法等の普及促進に取り組む。 ③食育SAT健康教育事業:働き盛り世代の食生活の改善を図るため、事業所内へ訪問し、体験型食事教育システム(食育SATシステム)を活用した健康教育を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	35,000		17,702		17,700
		(b) 予算現額	35,000		22,702		17,700
		(c) 増減額(b-a)	0		5,000		0
		(d) 前年度繰越額	0		0		0
		A. 計(b+d)	35,000		22,702		17,700
	B. 執行済額		30,787		22,702		17,700
	うち交付金充当額		24,629		18,162		14,159
	C. 次年度繰越額		0		0		0
	執行率(%) (B/A)		88.0%		100.0%		100.0%
予算の状況の説明		令和3年度予算は、令和2年度予算現額より、5,000千円減額となっているが、前年度事業で構築した健康づくりの普及啓発コンテンツの制作・発信等の技術ノウハウを活用したため、経済的かつ効率的な事業実施により、執行率は100%を達成し、計画的に執行することができた。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	①健康づくりに関する知識や実践方法の普及啓発を促進する健康情報コンテンツ等の発信 ②健康経営を普及推進するセミナーの開催 ③中小企業等に対する食育SATシステムを活用した健康教育の実施	目標	広報イベントの実施、県内企業実態調査、ハンドブック改訂及び調査結果の集計・分析、マニュアル検討会の開催	広報イベント及び健康経営セミナーの実施、マニュアル検討会及びデータ活用研修会の開催	広報イベントの開催・健康情報の発信、健康経営セミナー、健康教育の実施	メディア等活用した広報イベントの開催・健康情報の発信、健康経営セミナー、健康教育の実施	
実績		広報イベントの実施(3回)、県内企業実態調査(30社)、健康経営ハンドブック改訂及びマニュアル検討会を開催し、調査結果の集計・分析を行った。	広報イベント(3回)、健康経営セミナー(1回)、マニュアル検討会(3回)、データ活用研修(1回)実施	オンラインイベント開催(1回)・健康情報コンテンツ発信(8本)、健康経営セミナー開催(1回)、健康教育実施(3件)	イベント開催(1回)・ラジオ企画(1回)、健康情報コンテンツ発信(7本)、健康経営セミナー開催(2回)、健康教育実施(12件)		
進捗状況説明	①新しい生活様式の中で、オンラインを活用したコンテンツを制作・発信することにより、必要な時にいつでも健康情報が入手できる環境を整備した。また、SDGsの観点を取り入れた健康イベントを実施するなど、若い世代へのアプローチを行った。 ②健康経営セミナー(オンライン配信)で、経営者に向けて健康経営の正しいステップや具体的な事例等を紹介することにより、事業所における健康経営の重要性の啓発、実践支援を行った。 ③体験型栄養教育システムや動画セミナーを活用し、食事のバランスチェックをするとともに、栄養士による野菜摂取量増加のための食生活改善アドバイスを行うことで、食生活改善に向けた支援を行った。						

成果目標 (指標) 及び達成状況	R3成果目標(指標)		基準値	R1年度	R2年度	R3年度	目標値
			(〇〇年度)				(〇〇年度)
成果目標 (指標) 及び達成状況	①健康情報発信事業 がん検診及び適正飲酒に関する指標の改善 ・がん検診の認知度及び関心度	目標		認知度 52.9% 関心度 70.9%	認知度 42.6% 関心度 67.0%	認知度 43.8% 関心度 69.0%	
		実績		認知度 41.8% 関心度 67.0%	認知度 44.8% 関心度 31.8%	認知度 72.2% 関心度 54.0%	
	①健康情報発信事業 がん検診及び適正飲酒に関する指標の改善 ・生活習慣病のリスクを高める飲酒量の認知 度及び関心度	目標		認知度 57.0% 関心度 66.3%	認知度 34.8% 関心度 63.6%	認知度 34.2% 関心度 64.9%	
		実績		認知度 32.2% 関心度 62.9%	認知度 49.0% 関心度 85.8%	認知度 81.2% 関心度 58.8%	
	①健康情報発信事業 健康的な生活習慣を実践している人の割合 の増加(適正体重、食事、運動、禁煙、節度 ある飲酒、歯みがき)	目標		—	—	H28県民健康・栄 養調査結果の改 善	
		実績		—	—	改善した割合33% ※速報値	
	②健康経営支援事業 ・健康経営に取り組む事業所数	目標		233事業所	293事業所	453事業所	
		実績		281事業所	396事業所	412事業所	
	③食育SAT健康教育事業 ・健康教育を受けた人のうち、食行動が改善 した人の割合	目標		—	10%	10%	
		実績		—	8.8%	25%	
	③市町村生活習慣等実態調査事業(過年度 実施) ・マニュアルを活用して健康増進計画評価の ための調査をした市町村数	目標		—	—	19市町村	
		実績		—	—	該当なし	
達成 状況 説明	<p>①指標となる「がん検診及び生活習慣病のリスクを高める飲酒量」への関心や興味を高めるため、アニメーションを活用した動画コンテンツの配信を行った。その結果、2つの指標に対する認知度は、目標値を大幅に上回る成果となった。関心度については、クイズ形式で知識を習得する方法へ変更するなど、例年より高度な質問内容を設定したため、目標値には届かなかったが、啓発動画を視聴した効果(知識の習得)は、今後の健康づくりに大きく寄与するものと期待される。</p> <p>②健康経営の指標となる「健康経営宣言(沖縄労働局)、福寿うちな一言(協会けんぽ沖縄支部)」は、県を含む公的機関5者の連携協定により、R3から統合され、新しい制度でスタートした。これにより、実績の対象が新規登録数となったため、当初設定した目標には届かなかったが、関係機関との連携により、旧年度までの件数を上回っており、今後も健康経営に取り組む事業所は着実に増加する見込みである。</p> <p>③食行動が改善した人の割合は、健康教育の実施後、ほとんどの事業所で増えており、食生活改善の意識が高まっている傾向が現れるなど、成果目標は達成されたと認められる。 ※市町村生活習慣等実態調査事業(H29～R1実施)の指標とした「調査マニュアルを活用した市町村数」については、前提となる市町村健康増進計画の延長により検証が困難となっている。(国の健康増進計画の策定スケジュール遅れのため)</p>						

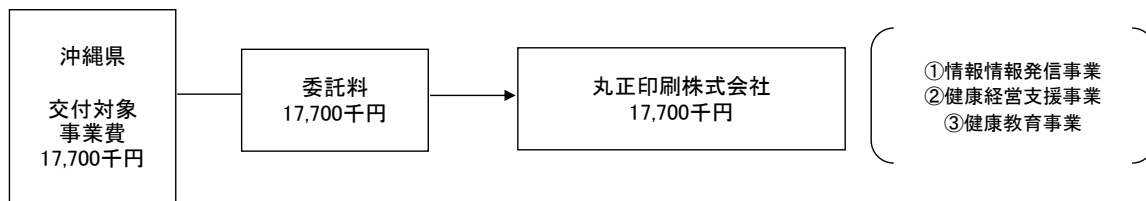
R3-No.64

取組の 検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①日頃から健康づくりの意識が高い層では、イベントやセミナーへの積極的な参加が期待できるが、若い世代や無関心層へのアプローチとしては必ずしも効果的とは言えない。また、関心はあっても、実践方法の知識がなければ行動変容は難しいことに加え、感染症を警戒する中で、運動や検診を控えるなど、ウィズコロナでは、健康意識が高い層との健康格差が懸念される。</p> <p>②人的・金銭的の都合上、健康づくりへの取り組みが遅れていると思われる事業所に対して、段階を踏んだ計画に基づく支援が必要がある。</p> <p>③働き盛り世代の食生活は、1日の大半を過ごす職場での働き方や生活習慣に影響を受けることが多いと思われるため、事業所での食生活(栄養バランス)の環境の改善が必要である。</p>	<p>①健康に関心が低い無関心層等に対しては、行動経済学ナッジを活用したアプローチや、SDGsとの繋がりや健康面以外でのメリットをPRするなど、効果的な啓発活動を行うほか、地域や職場等で健康づくりを実践しやすい環境づくりを推進する。また、当事者意識が持てるような情報発信の仕組みづくりを整備する。</p> <p>②事業所に対して、経営的視点を含め、健康づくりの企画・立案から実施に至るまでの支援を行い、持続的に取り組めるような仕組みづくりを推進する。また、企業や経済団体のキーパーソンとして、健康経営のノウハウを実践できる人材の育成が必要となる。</p> <p>③事業所での健康教育として、体験型栄養教育システムでの啓発と併せて、栄養士による食改善のアドバイスなどの個別支援を行う。</p>
今後の取り組み方針		
<p>〇感染症対策などの影響により、県民の日常生活や働き方に変化が求められる中、日頃の生活習慣を見直し、健康習慣を身につける転機とし、意識や行動変容のための普及啓発や実践しやすい環境整備に取り組む。具体的には、身体活動の向上による健康維持のため、身近に取り組めるウォーキングを促進することで、運動不足で生じる肥満の改善を目指す。</p> <p>〇課題となっている働き盛り世代の健康状況は、一日の大半を過ごす職場での働き方や習慣の影響を受けることが多いため、健康経営の観点から企業の課題に応じた支援を行うとともに、経済団体活動の一環として導入支援を行うなど、組織に向けたアプローチを新たに展開する。</p> <p>〇令和4年度から、公的機関5者が相互に連携、協力し、健康経営や健康づくりの普及促進の取り組みがスタートした。これにより、うちな健康経営宣言の協働運用による推進など、本協定の枠組みで検討される施策・立案を本事業に反映させることで、全体的な取り組みを展開する。</p>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
17,700	17,700	14,160	3,540	0	0	0



資金 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、事業効果を高めるため、価格以外の条件を重視した企画提案プロポーザル方式により選定し、過年度の実績や成果物を後続する事業で活用するなど、業務遂行は適切であったと考える。 ○その費目・使途については、事業報告書等进行检查し、適正であることを確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

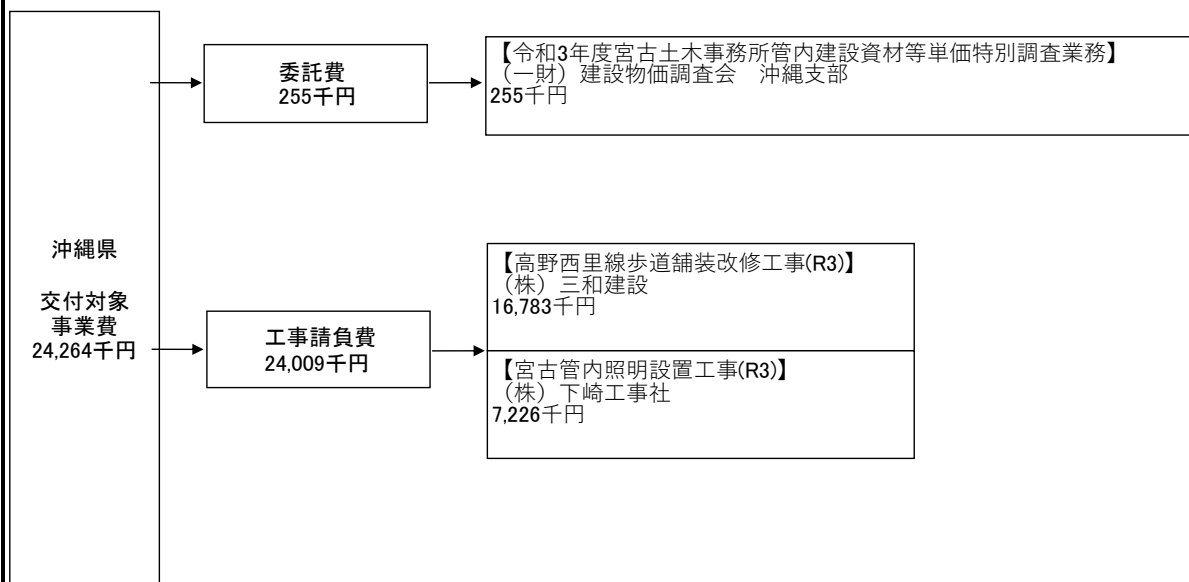
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	192	がんじゅーどー事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-イ		
担当部課名	土木建築部 道路管理課	事業実施 (予定)年度	H26 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	「スポーツアイランド沖縄」の 形成 Ⅲ-11-(2)		
事業内容	県民の健康づくりを推進するため、ウォーキング・ジョギングに使いやすい道路空間を形成する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】			R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	128,843		30,000		26,355
		(b) 予算現額	128,843		30,000		26,355
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	128,843	0	30,000	0	26,355
	B. 執行済額		121,614		29,326		24,264
	うち交付金充当額		97,291		23,461		19,411
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		94.4%	#DIV/0!	97.8%	#DIV/0!	92.1%
予算の状況の説明		・執行率は92.1%であり、不用額(2091千円)は、入札残及び執行残の金額である。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	・モデル路線(5路線)のうち未整備路線1路線の整備	目標	モデル路線の整備(2路線)	モデル路線の整備(3路線)	モデル路線の整備(1路線)	モデル路線の整備(1路線)	
		実績	モデル路線の整備(2路線)	モデル路線の整備(3路線)	モデル路線の整備(1路線)	モデル路線の整備(1路線)	
進捗状況説明	・モデル1路線をウォーキング・ジョギング等に利用しやすい道路空間として整備した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R3成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (〇〇年度)
	・モデル路線(5路線)におけるウォーキング・ジョギング等の利用者数 300人/日	目標		利用者数 285人/日	利用者数 293人/日	利用者数 300人/日	
		実績		利用者数 285人/日	利用者数 291人/日	利用者数 315人/日	
	達成状況説明	・モデル1路線の整備を行い、モデル5路線の利用者数が目標値に達成した。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	これまで完了した整備路線の効果を、利用者のアンケートを通して検証し、H26年に計画したモデル路線の整備を検討する必要がある。	これまでに整備してきた5路線において、実際に利用している人に整備路線によって得られた利便性や健康への意識改善に関するアンケートの実施などが必要である。
	今後の取り組み方針	
<p>・整備された5路線に対するアンケートの実施や整備効果の検証結果を基に追加整備を検討することで、利用者数や運動距離を増加させ、県民の健康増進を図っていく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
24,264	24,264	19,411	4,853	0	0	0



資金の流 れ、費目 の点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託・工事業者は指名競争入札により実績を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	